

Editor's Note

多くの関係者・会員のご協力のおかげで、ここに『現代ディスクロージャー研究』第11号をお届けすることになりました。この11号については、次頁(編集データ)に示されるように5本の応募が寄せられ、厳正な審査の結果、2本が採択されました。ひとつは、格付けにおける原資産情報のデューデリジェンスについてとりあげたもので、当該問題について歴史的、経済的かつ法的な視点から詳細に議論しており、最近の社会問題に関係するディスクロージャー分野の学術研究として価値が認められます。もうひとつは、経営者予想について、その期初予想と期中の修正行動を包括的に分析したものであり、企業のディスクロージャーを解明する研究として興味深いものです。いずれも厳正な審査が行われ、査読意見を含めて十分に検討され、修正を重ねて完成されたものです。第11号の発行に当たり、15名の編集委員の方々には、委員会の審議や研究カンファレンスの運営など、多くのご協力をいただきました。また、査読委員の方々には、厳しい時間的制約の下で査読を担当していただきました。併せて感謝申し上げます。

さて、今年3月11日(金)に東北地方を中心とするマグニチュード9の大地震が発生しました。この東日本大震災によって多数の死者や行方不明者が発生し、また家屋の倒壊や農作物の放射能汚染をはじめとする物的被害も甚大であり、お悔やみ申し上げるとともに1日も早いご復興を心よりお祈り申し上げます。この大震災は未曾有の社会的現象であり、いろいろな問題に波及しており、多岐な議論が可能です。その中で、特にディスクロージャーの視点からこれを取りあげると、情報の適時性や信頼性などについて興味深い示唆を得ることができます。ほんの数分前に起こった大地の震動や津波などの大事故が映像としてリアルに報道され、ショッキングではありましたが、即時なディスクロージャーとしては評価できます。福島原子力発電所の事故についても、突然の発煙や懸命な放水作業の様子は同様なものとして評価できます。しかし、これに関連する政府や東京電力等の説明については、迅速性に欠け、不明な点も多く、問題が残るものでありました。それに対応してか、関連する国民の反応は過剰さみになったと考えられます。避難区域やその近隣に救援物資が配達されなかったり、特定の住民の宿泊が拒否されたり、また海外に一時的に避難する人もありました。こうした反応は何故起こるのでしょうか? もちろん、すべてが過剰ではなく、正常なものもあるかもしれませんが、過剰なものと仮定して議論をすすめることをお許しください。理由として、まず健康に直接関わるため関心が高く、敏感に反応しやすいことがあります。その上で、関連する公表情報に対する不信感があげられます。政府等が健康への影響は極めて少ないと公表しても、何か重要事実を隠蔽していると思われ、情報を拡大解釈して行動したと考えられます。また、多くの国民においては放射能について専門的な知識が少なく、わからないために不安感が増幅したかもしれません。約10年前に東海村の臨界事故があったとはいえ初めての体験であり、個人が考えつく可能な行動をとったと考えられます。このことから、今回の大震災は情報の信頼性と情報内容の理解度が情報の受け手の行動に影響を与えた代表的な事例として捉えることができます。但し、結論を確定するには厳密な分析を行う必要があることは言うまでもありませんが、この日本ディスクロージャー研究学会において学術研究として非常に多く分析されている企業情報についても、同様な議論が可能かどうか、今後の研究に期待したいと思います。

研究誌編集委員長

吉田和生

編集データ

『現代ディスクロージャー研究』第11号の編集状況は次の通りである。すべての原稿は、研究誌編集委員会が採否を決定した。論文セッションの原稿は、複数の匿名査読委員によってレビューされている。

論文セッション

受付数	5
うち、	
受理数（採択率）	2（40%）
条件付採録決定・未受理数	1

研究誌編集委員会

謝 辞

査読委員の長期にわたる真摯なレビューがなければ、学会誌の品質はけっして確保できませんでした。現代ディスクロージャー研究編集委員会は、ここに記して、第11号の査読委員、並びに、査読プロセス中のために第10号で掲載を差し控えさせて頂いた査読委員の皆様に感謝の意を表します。謹んで御礼申し上げます。なお、査読プロセス中の査読委員につきましては、採録決定まで掲載を差し控えさせていただきます。

太田 浩司	関西大学
乙政 正太	関西大学
岸田 雅雄	早稲田大学
徳賀 芳弘	京都大学
向 伊知郎	愛知学院大学
山形 武裕	佐賀大学
吉田 和生	名古屋市立大学
吉田 靖	千葉商科大学

(敬称略、五十音順)

研究誌編集委員会